得意だった洗車が今の生きがいに。

洗車場に車が入ってくると同時に、その車を取り囲むようにして待機する3人。すぐさま、車内の掃除機がけや拭き掃除など、それぞれの持ち場で黙々と清掃をはじめる連携がとれた動きには、まったくと言っていいほど無駄がない。

ここは『大分ダイハツ販売株式会社』大分店の洗車場。洗車を担当する3人のうちの1人、上村孝幸さん(66歳)は、同社に4年前から準社員として勤務している。いきいきと働くその姿はエネルギーにあふれ、とても若々しい。

これまで数社で多様な職種を経験してきた上村さんだが、61歳で前職を退職後、「まだまだ働きたい」とすぐに『ハローワーク』で再就職先を探しはじめた。

「何社か応募しましたが、ことごとく不採用で。年齢的に就職は難しいのかもしれないと、絶望的になりましたね。そんな時、『大分県中高年齢者就業支援センター』のキャリアコンサルタントの方が、『高齢だからダメだと自分で決めつけていませんか? 自分ができること、得意なことをどんどんアピールしていきましょう』と言われて、ハッとしたんです。それから気持ちが前向きに切り換わりました」

若いころからずっと車が好きで、キレイ好きな性格から、特に自分の車はこまめに洗車していた上村さん。そんな自分の好きなことや得意なことを意識して就職活動に臨んだところ、現職の洗車の求人を見つけた。これまで経験したことのない職種だったが、「これだ!」と思い応募し、採用が決まった。

現在は、お客さまが車検や修理に出した車を洗車するのが仕事だ。上村さんを含む3人の洗車担当はみな60代で、2人または3人で1日平均30〜40台の車を洗車している。日によって台数は変動するが、多い時は1日に75台をこなしたこともあるという。

常に効率の良さを考えながら仕事に励んでいた上村さんは、ある時ミスを防ぐ一つの方法を思いついた。洗車場に運ばれた車が、お客さまに返すまでに時間がある「預かり」の状態なのか、お客さまが今現在店内で返却を待っている「待ち」の状態なのかなどを、サービス担当から口頭で伝えられるのだが、忙しい時はその伝達を聞き間違えることもあり、ミスにつながることがあった。そこで、車一台一台がどのような状態にあるか記したカードを、ダッシュボードの上に置いてはどうかと提案したのだった。洗車担当の仲間と話しあって、「預かり」「待ち」のほかに「至急」「手洗い」「待車検」など、合計25種類ものカードが出来上がった。このカードを導入して以来、伝達ミスはまったくなくなったという。上村さんのこれまでの豊富な経験と持ち前の向上心の高さから生まれたアイデアが、今の仕事の質を向上させたのだ。

大切なのは、年齢に縛られないこと。

「洗車という好きなことを仕事にできて、毎日すごく楽しいです。『たかが洗車、されど洗車』。車検や修理が目的で預けた車でも、ピカピカになって戻ってくるとやっぱりうれしいじゃないですか。私がそうですから(笑)。今の自分にとって、この仕事はまさに〝生きがい〟ですね」

上村さんのように、シニアになって働く際に大事なことを、聞いてみた。

「会社には私より若い正社員の方がたくさんいますが、お客さまの満足度向上に、私もチームの一員として役に立てるよう、社員のみなさんと関わることを大事にしています」

会社組織での人間関係の大切さをよく知っている上村さんだからこそ、自然とできることなのかもしれない。

「年寄りくさく見られるのがイヤなんですよ(笑)」という上村さん。週に1〜2回のペースでスポーツジムに通い、ウオーキングマシーンと2時間の筋トレで体を鍛えている。そのおかげで体力がつき、仕事にも役立っているのだとか。最近よく聴いているのは「ハジ→」の曲。中学生の孫と一緒に行った佐世保のフェスで初めて知り、それ以来お気に入りだ。

年齢にとらわれず、自分が好きなもの、良いと感じたものを大切にする考え方が、若さの秘訣(ひけつ)のようだ。上村さんにとって現在の洗車の仕事も、若々しさの大きな源であるに違いない。

日々、連携を密にして働いている洗車担当の仲間と、サービス担当者。

上村さん提案のカードを車内に置くことで、車の状態が一目瞭然に。

1

大分ダイハツ販売 株式会社
大分店
上村 孝幸さん(66歳)

かがやきシニア 最前線!
KAGAYAKI SENIOR